

童話 磐城黒姫物語 【四】

斧 青三郎

黒姫は心の中で子供達を呪いくなりました。  
いつちくたつちく代文さん。

黒姫さまは、夕やにもまられて、泣き聲すればいとばだの茶碗が、われたとき。  
黒姫は我慢が出来ずに頭巾で涙を抑えるのでした。

幼ない時に遊んだ、手まりの友達、皆んな美しいお嫁さんになって、隣里へ行つてしまいました。黒姫は一人のお友達もなくなつた寂しい日を暮しておりました、でも白菊兄弟は何かにつけて慰めて呉れたし、寺の和尚の教へが何程姫の心を和いて呉れたか知れませんでした。

黒姫が真夜中に眼を覺ましてゐると、次の部屋からシクシクと泣き聲が洩れて参りました。それは老父母の話の中に洩る泣き聲でした。

「縁談は皆んな断りを受けろし、それだと言つてこのままになるものでもなし。」  
「吾しはもう寝ても醒めても……」

黒姫は話の様子を、すっかり知りました老いた父母にまで、この様な心配をか

ける自分のはかなかさを、憎んでも見ました。

(いつそのこと、死んで了うかしら)と考いた事も二度や三度でありませんでした。が、老いて行く可哀いそなな父母を思ふと、こんな考いも淡い春の雪の様に溶けて了ふのでした。

思ひ餘つた時には白菊黄菊の二人にも苦しい胸の中を開いて語りました。白菊も黄菊も黒姫と等しい苦しさが、胸一ぱいになるのでした。

それから二月の月が流れました。それは冬の夜でしました。それは冬の夜でしました。

鋭い釣針の様な、金無垢の月が静かな石城の里を照らしました。

裏の山には、コン、コン

春浅き盥に洗ひ捨てし衣  
春浅き椽に爪切る女かな  
松原に魚夫の焚火や春浅し  
吹くとなき風冷々と春浅し  
春浅し彼岸にかすむ塔一つ  
抜風呂の路次に煙りて春浅し  
満洲のみかと盛儀や春浅し  
遠山に雪消えにけり春浅し

春浅し (一) (高月句會集)

秀 同 湖 同 良 十 耕 同 千  
峯 晴 亭 糸 影 鳥

と狐が啼いて行く夜でし  
しめし合つた、白菊黄菊  
の二人は誰にも氣付かれな  
い様に、兩戸を外して素足  
のまま表に出ました。

青い尾を引いて大きな星  
が、山の上を飛びました。  
「おお! 冷たいナ」  
「いけない、今度で終りだ  
からネ」

浅黄の夜着のまま、瀬  
戸に出ました。橙々の果が  
青い月に光つておりました  
梟が、ホーホー、と、鳴  
いてゐました。

水の凍えた井戸端が寶石  
の様に光つておりました。  
二人は釣瓶の水を頭からか  
ぶりました。二杯目の水を  
沐浴しました。

「神様、どうぞ妹の黒姫を  
あのみにくさと悲しさから  
お救い下さい。心の美しい  
妹です。情けの深い妹です  
どうぞ美しい妹にして下さ  
いと二人は手を合せました

御融通には!  
是非御利用を……。  
萬事便利な御相談に應じます。

三井質店

平四・電六〇六番

吉田眼科病院

平細屋町電話六八番

眼科専門

院長 吉田 安雄  
醫學士 吉田 久雄

貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九ノ勢デ)

眞先ニ……(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科  
耳鼻咽喉科

外科花柳病科  
レントゲン科

平町田町 電話五一三番

今流行のレコード

東京音頭  
昭和音頭  
福島音頭  
萬歳音頭  
スキー行進曲  
希望の首途  
春のエレヂー  
急げ幌馬車  
ピクチャー特約店  
コロムビア

金光堂時計店

平町五丁目

外科

専門線 X

上田外科醫院

平町南町  
電話一二九番

お正月催した鮎とカキ料理は多大の御引  
立に預り誠に厚く御禮申上ます。就きまして  
は又々本日よりまぐろとカキ料理は御引  
立を初めましたから何卒以上の御引立の程御願  
致します。

さしみ山盛	御一人前	廿五錢	鐵火井	同	十二錢
鮎すし	同	二十錢	ねぎなべ	同	二十錢
フライ	同	廿五錢	ねぎなべ	同	廿五錢
イ	同	二十錢	かさ酢	同	十五錢
			鐵火卷	同	十五錢

魚清食堂部

平二警察署裏通り  
電話六三三番

徒弟入用

# 火力問題

## 色川氏回答

### 誠意を披歴す

#### 急轉直下解決か?

色川火力製材場問題にからまる粉争は調停委員の斡旋奏功して双方

歩み寄り つゝあるこ

とは既報したがその後色川氏よりの回答によれば第一條件の側溝を設けることは無條件にて承諾するが六尺のコンクリート防火壁建設の件は隣家の物置に接近する西方を板ばりにし

その他は、トタン塀にすることまた同問題に就て世間を騒がした罪を謝する

## 水道の使用料にも

### 納税奨励規程適用

平町納税組合の奨励規程は水道使用料に付適用されてなかつたが昨年来から組合員の間に適用方を認めてほしいとの嘆願があつたので平町でも大英断を以て昭和九年度より水道使用料に對して國縣町税と共に奨励規程を適用することとなつた

## 役場吏員

### 互助入會者

昭和九年度より實施される福島縣村町吏員互助會の本郡下七町三十四ヶ村の

てゐるが内譯は甲種(町長助役、収入役級)が九十三名、乙種(書記以下雇員級)百五十四名である

## 教練指導

### 藤井中佐が

平町を始め四倉、大野、大浦、草野、夏井、神谷、高久、湯本、飯野、内郷、永戸、箕輪、三坂、澤渡、川前、上下小川、好間、平窪赤井三町十八ヶ村の青年訓練所教練指導員の巡回指導は本日午前九時より平第一小學校講堂に於て開かれたが指導官は福島縣隊區司令部付藤井中佐であつた

## 優等の御褒美

一級當り、二割に既報する二十四日修卒業式を舉行する平町各小學校では明日より三日間に亘り夫々成績認定會を開く事になつたが優等賞は各級共在籍生の二割進歩賞は一割の見當で再修生は出席日數の足りない者以外は出さない方針である

## 研究物を網羅

平第一小學校職員の研究物を網羅した「そだて」と題する冊

## 無明の世界にも

### 春は巡り來て

#### 螢雪の辛慘空しからず

#### 訓盲院を巣立つ喜び!

平町警誠訓盲院には現在十二歳から三十歳迄の盲人三十四名があつて普通人には計り知れぬ苦辛慘憺を嘗めて、寒暑の別なく、『按摩上下...』と大路小

## 營林局長が

### 官行造林視察

東京營林局長原長二氏は明十四日午前九時一分平驛着列車で來平齋藤平營林署長の案内で同日より一週間の日程により石城郡内の官行造林事業、海岸保安林、砂防視察を行ふと

## 會議室増築

### 土木委員協議

平町土木委員會は十六日午後一時から平町役場會議室に於て開き町有土地競争入札に關する件、役場會議室増築工事施行方法決定に關する件を附議する

## 榮轉兩氏

### 昨夜の送別會

三堀氏は十五日赴任昨夜午後六時より丸友ホールに於て今回榮轉した三堀檢事及び緒方監督書記の送別會が裁判所員、官衛長等極く別懇な人々に依て催されたデザート・コースに入

## 火見移轉

### 工事の入札

平町十五丁目共濟病院脇火の見櫓は今回平警察署内に移轉することに決定したのでこれが移轉建設費の入札を三月十五日午後一時より町役場會議室で執行する

## 卓球役員改選

卓球協會委員會は十八日午後六時から平町マルトモホールで開き役員改選規約改正等につき協議する

## 看護婦急派

### の求めに應

#### じます

## 平看護婦會

内郷家政卒業生 内郷村家政女學校では明日午後一時より職員會を開き卒業式の日取其他種々協議するが今年卒業生は三十八名で多分二十三日舉行する豫定である

## 今度社會に出るや直

ちに縣知事から『鍼灸按摩師』の免許を下附されてこの不況の荒波に堂々普通人と肩を伍して生活してゆくのだ、尙卒業式當日には初等部(尋常小學校程度)六年生三名が卒業、四月に同院中等部に入學

美味!

芳醇!

# 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

## 市原醫院

平町 田町 電話一四四番

### 新學年の御用意

小学生用 ランドセル (十三種)  
中学生用  
女學生用 手提カバン (十三種)  
一般

マルモト柴田書店

電話 二五九 四七 三五

## 耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

平町南町 電話一七〇番

# 病身の婦人が

## 河中に身を躍らす

### 溺死せんとする子を救ふ

#### 人命救助前後四回

病身の婦人が春といへど未だ寒き去る六日愛谷江筋で溺れかゝつてゐる子供をみて我が身の危険も顧みず飛び込んで救助した美談がある。世界館樂士近江清さん長男英一君(六)は去る六日午後二時頃九品寺裏の愛谷江

#### 附近で遊戯中誤つて

河中に轉落、救ひを求めたが生憎駆けつけてくれる者もなく浮きつ沈みつ十數間ばかり流されたが折柄同江筋で愛兒ミヨエさん(三)を背負つて洗濯をしてゐた仲

#### 踏切で列車に

##### 刎ね飛ばさる

赤井村大字西小川字瀧ノ作坂下赤井古市炭礦職員佐藤武夫(三)は十三日午前五時五十分頃同村字瀧ノ作踏切に於て磐越東線郡山行列車に觸れ右足々首より轢断されて刎ね飛ばされ後頭部に三寸餘の裂創を負つて直ちに平町安齋病院に入院手當中であるが生命危篤

#### 母校に

##### 掛時計

平商業學校本年度卒業生三十七名は昨日卒業證書授與式終了後同校講堂に於て謝恩會を催したが卒業記念として母校に大型掛時計一ヶ

間町五五佐藤キクヨさんを寄贈した

#### 隣家の...

##### 煙突から

###### 危く失火

十一日午後十時頃内郷村綴字一ノ坪雜貨商石川喜代壽(三)方の勝手裏の屋根から發火してゐるのを家人が發見大事に至らずに止めた

#### 盗んだりヤカーで

##### 附近農家を荒し廻る

大野村大字八莖字中丸一五農邊秀吉(三)は去る一月二十三日平窪村清水留吉方に忍び入り糯米及び玄米合計六斗、並に空氣銃(價格十五圓)一挺を窃取、又昨年十二月四日神谷村上片寄大原勘次郎方より糯米一石六斗を、同じく隣家の久野秀之助方からリヤカー一臺(價格九圓)を盗み出し前記の玄米を積んで平町仲間町西山精米所へ來り十四圓で賣却したる外四件の窃盜を働いたこと發覺、昨十八日平署に檢舉され目下嚴重取調中

#### 警官に

##### 喧嘩を賣る

###### 泥酔男檢束

平町鎌田佐藤宗則(三)は昨夜十一時頃泥酔し鎌田橋上に於て私服で自轉車にのり左側を通行してきた飯野村駐在所巡査に突き當り何故か通行せんとしたと食つてかゝり暴行せんとしたので檢束平署の留置場入り

#### 放火組合長

##### 宮城に護送

既報平支部に於て中島判事より懲役二年六ヶ月を言渡

明日の部  
今晩も明日も北西の風強く小雨  
後晴

今晩の部  
後六、〇〇 子供の時間  
唱歌劇 伊吹媛名古屋樂  
窓會々員  
後七、三〇 講演「後醍醐  
天皇の御事文」學博士和田  
田英松

後八、〇〇 長唄 楠公杵  
屋六左衛門外大勢  
後八、四〇 舞臺劇新歌舞  
伎「十八番の内」女楠木  
尾上多賀之丞外  
後九、三〇 時報 ニュー  
ス 氣象通報 番組豫告

明日の部  
前七、〇〇 基礎英語講座  
(二十九回)倉田三郎  
前九、一〇 料理献立 豆  
もやしと肉の吉野煮 磐井  
たす  
前一〇、〇〇 軍艦最上命  
名式實況 吳海軍工廠  
り中繼  
後一〇、〇〇 滿洲より  
後二、〇〇 家庭大學講座  
「植物の常識」久内清孝  
後五、三五 法律講座「親  
族相續法」(第八講)中川

善之助  
後六、〇〇 子供の時間  
獨唱宮下晴子 宮下禮子  
ピアノ伴奏 深澤一郎  
後六、二五 基礎佛語講座  
(十七)日黒三郎  
後七、三〇 講演「國民の  
融和」内務大臣男爵山本  
達男  
後八、〇〇 俚語  
後八、三〇 ラヂオドラマ  
「村は吹雪く」鈴木利夫外  
後九、〇〇 獨唱と三重奏  
獨唱野信平 ピアノ伴  
奏 坂入忠四郎

原因は隣家の飲食店の煙突よりの飛火からと判明した

された平町字月見町二七同町元火防組合長伊藤喜一郎(三)は昨日上訴権を抛棄し罪したため本日平發午前八時十九分にて渡邊看守附添への下に宮城刑務所に護送され同所に於て服役する事になった

藤敬治(三)が時計修繕業と稱して小名濱町字竹中一三小泉常次郎氏より依頼された二十二型懷中時計を始め各所より依頼された時計類を入質又は賣却した事件は過般平檢事局に於て三堀檢事係りの下に取調べ中であつたが本日横領罪として起訴されたので来る十五日午前九時より平區裁判所に於て關口判事係り清田檢事立會の下に公判を開廷する

小店員數名募集  
年齢十五才ヨリ  
優遇  
御希望ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下さい  
平町田町一七  
レストランサロン  
電話三五二番

平職業紹介所報告  
回人を求める方  
△下界 三〇―三五才 教  
育程度不問 月十圓位  
△女中 十五―二十才位  
尋卒 月七圓位  
△雑役 二十一―三十才迄  
尋卒 日給七十錢  
△女中 十六―二十才位  
尋卒 月五圓位  
△女中 十五―十八才 尋  
卒 仕着外三圓位  
△女中 十七―五十才迄  
尋卒 月五圓位  
△自動車運轉手 二十六才

一冊の代金で  
御希望通りな  
五冊の雜誌が  
自由に讀める  
川崎巡回文庫  
電六三〇番  
(申込次第規則書進呈)  
木村外科醫院  
平町五丁目橋際  
電話九〇三番

# 銘劍秘笈

【禁無斷轉載上演映畫】

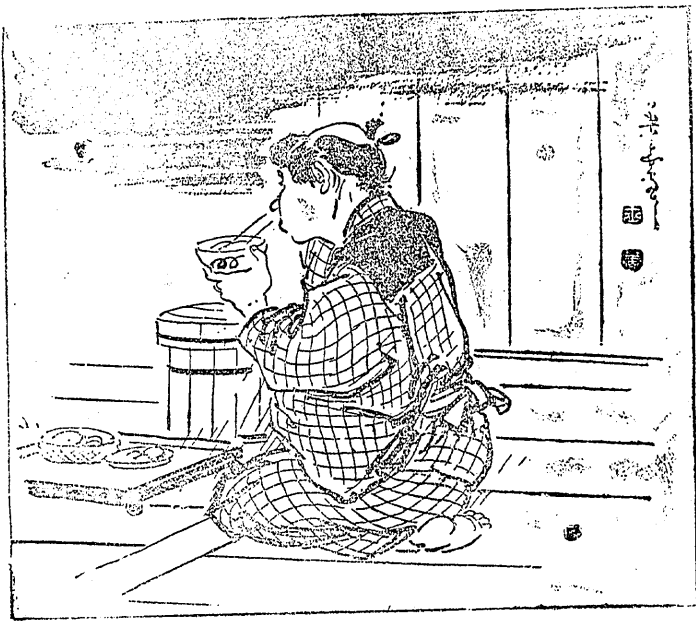
寶井馬琴演  
山本英春畫

第七十九回 徳川家に崇る村正

敵の家へ奉公に

水上五太夫はこの頃滅多に自分で稽古をつける様なことはない、大抵横澤、本多、白旗の三人が代稽古をしてゐるが、道場は益々繁昌するばかり、仲間の八藏爺さん表へ出てくると小僧が粗末な姿をして日窓からぶら下つて中を覗いてゐる

八「小僧や」  
小「ヘエコレハ八藏さんでございますか、いつもご機嫌宜しう」  
八「ナンだいな、どうして俺の名前を知つてゐる」  
小「毎日斯うしてこの窓口からお邪魔をして居りますんで、大概皆さんのお名前を覚えてしまひました、横澤先生に本田先生に白旗先生それから田中さんに前田さんに連田さんは強うございますな」



八「何でも知つてゐやがる、旦那様方でも皆お前の噂をしてゐらつしやるぞ、あゝやつて毎日欠かさずに見に来るのは餘程剣術が好きなんだらうと」  
由「仰言る通りで私は剣術は大好きで、今に大きくなつたら剣術屋さんにならま

八「劍術屋といふ奴があるか、まるで賣物の、様ぢやないか、お前は何處だ」  
由「私は四谷の鹽町でございます」  
八「兩親はあるのか」  
由「左様でございます、兩親

八「有難うございます、お出なすか」  
八「そんな圖々しいことを言つちやいけねえ」  
臺所へ連れて来て八藏がたくわんを澤山出して来てはちをあてがつてくれたから由松遠慮をしないで

由「ヘエ水を汲んでしまひましたからお臺所の拭き掃除を致します」  
八「氣の毒だな」  
由「ナニ譯はございませぬ」  
臺所を拭いてしまふと今度は草箒を持つて表を掃き始めた、八藏感心をして

八「口も達者だがよく氣が注いで働く感心な奴だ」  
と褒める、そこへ本多と横澤が出て来て  
横「何だあの小僧は」  
八「ヘイ毎日道場を覗きに來る小僧で、段々様子を聞いて見ると兩親がなく、伯父の處に厄介になつてゐるがその伯父が貧乏で三度の食も碌々食へられないといひます、餘り可哀想だから今茶漬飯を食はした處があの通りよく働いて居ります」

横「成程、小僧此方へ來い」  
由「ヘイこれは先生方で毎日よく御精が出ます」  
横「イヤ世辭の好い奴だないく才になる」  
由「十一でございます」  
横「どうだらう本多氏この位の小僧が一人居つても宜くはないかな」  
本「左様八藏ももう年を老つてゐるから一寸頼みにくい場合もあるそれは置いてやつても宜からう、オイ白旗氏、一寸此處へ来て下さい」

ク〜食べてしまひ  
由「大に頂いたのでお腹が一杯になりました、腹つ消化に水を飲んで参りませう」  
八「そうか、そりや有難い死にまして、九つの時に阿父が死にました、今では叔父の所に厄介になつて居り

本「ぢやそう言ふ事に致そう……八藏今吾々で相談をしたのだが先生の方へは吾々から話をするからお前の處へこの小僧を置いてやんなさい、下働に使へばお前も樂だらう」  
八「そりや有難うございませぬ、貴方がたが御承知なら先生も何も仰言いますまい、どうか置いてやつて下さいまし」  
八「小僧どうだ、お前の方は」  
由「有難うございませぬ、そうすれば私も剣術を覚えられます」  
横「ナニ劍術が熱心か道理で好く見に来ると思つた、又合間を見て吾々が教えてやる」  
由「どうか何分よろしくお願ひ申します」  
こんな譯で首尾よく由松が、敵の水上の道場へ住み込みました。

本「ぢやそう言ふ事に致そう……八藏今吾々で相談をしたのだが先生の方へは吾々から話をするからお前の處へこの小僧を置いてやんなさい、下働に使へばお前も樂だらう」  
八「そりや有難うございませぬ、貴方がたが御承知なら先生も何も仰言いますまい、どうか置いてやつて下さいまし」  
八「小僧どうだ、お前の方は」  
由「有難うございませぬ、そうすれば私も剣術を覚えられます」  
横「ナニ劍術が熱心か道理で好く見に来ると思つた、又合間を見て吾々が教えてやる」  
由「どうか何分よろしくお願ひ申します」  
こんな譯で首尾よく由松が、敵の水上の道場へ住み込みました。

本「ぢやそう言ふ事に致そう……八藏今吾々で相談をしたのだが先生の方へは吾々から話をするからお前の處へこの小僧を置いてやんなさい、下働に使へばお前も樂だらう」  
八「そりや有難うございませぬ、貴方がたが御承知なら先生も何も仰言いますまい、どうか置いてやつて下さいまし」  
八「小僧どうだ、お前の方は」  
由「有難うございませぬ、そうすれば私も剣術を覚えられます」  
横「ナニ劍術が熱心か道理で好く見に来ると思つた、又合間を見て吾々が教えてやる」  
由「どうか何分よろしくお願ひ申します」  
こんな譯で首尾よく由松が、敵の水上の道場へ住み込みました。

本「ぢやそう言ふ事に致そう……八藏今吾々で相談をしたのだが先生の方へは吾々から話をするからお前の處へこの小僧を置いてやんなさい、下働に使へばお前も樂だらう」  
八「そりや有難うございませぬ、貴方がたが御承知なら先生も何も仰言いますまい、どうか置いてやつて下さいまし」  
八「小僧どうだ、お前の方は」  
由「有難うございませぬ、そうすれば私も剣術を覚えられます」  
横「ナニ劍術が熱心か道理で好く見に来ると思つた、又合間を見て吾々が教えてやる」  
由「どうか何分よろしくお願ひ申します」  
こんな譯で首尾よく由松が、敵の水上の道場へ住み込みました。

ほしやなぎ  
いかの鯉から  
鱈魚の子



魚問屋  
店理代平命生本日本最優最  
榮盛賀志  
(三一電)目丁四平

中村齒科醫院  
平町鍛冶町七

自轉車と  
リヤカー  
フタバ商會  
元 平新川町月見橋際

魂の這入つた!  
お惣菜用  
さつま揚  
吉原揚  
不孫寅  
電話一四一番

かまぼこ  
お惣菜用  
さつま揚  
吉原揚  
不孫寅  
電話一四一番